

**製品名: ENaC  $\beta$  (リン酸化 Thr615) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04607**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	68kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SCNN1B SCNN1B; Amiloride-sensitive sodium channel subunit beta; Beta-NaCH; Epithelial Na(+)
別名	channel subunit beta; Beta-ENaC; ENaCB; Nonvoltage-gated sodium channel 1 subunit beta; SCNEB
遺伝子 ID	6338.0
SwissProt ID	P51168
免疫原	抗血清は、Thr615 のリン酸化部位周辺のヒト非電位依存性ナトリウムチャンネル 1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 581-630

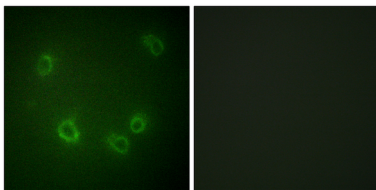
## 背景

非電位依存性、アミロライド感受性のナトリウムチャンネルは、多くの臓器の上皮における体液および電解質輸送を制御します。これらのチャンネルは、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$  の3つのサブユニットからなるヘテロ多量体複合体です。この遺伝子は  $\beta$  サブユニットをコードしており、この遺伝子の変異は偽性低アルドステロン症 1 型 (PHA1) およびリドル症候群に関連しています。[RefSeq 提供、2009 年 4 月]、疾患: SCNN1B の欠陥は、常染色体劣性偽性低アルドステロン症 1 型 (PHA1) [MIM:264350]の原因です。PHA1 は、標的臓器がミネラルコルチコイドに反応しないことから生じるまれな塩類喪失疾患です。PHA1 には、重篤な常染色体劣性型と、ミネラルコルチコイド受容体の欠陥に起因する、より軽症の優性型の2つの形態があります。常染色体劣性遺伝性の PHA1 は、新生児期に脱水、低ナトリウム血症、高カリウム血症、代謝性アシドーシス、発育不全、および体重減少を伴い、しばしば劇症の症状を呈することを特徴とします。疾患: SCNN1B の欠陥は、リドル症候群[MIM:177200]の原因です。これは、偽アルドステロン症および低カリウム性アルカローシスを伴う高血圧を特徴とする常染色体優性疾患です。この疾患は、腎上皮ナトリウムチャンネルの恒常的活性化によって引き起こされます。機能: 利尿薬アミロリドによって阻害される、ナトリウム透過性の非電圧感受性イオンチャンネルです。上皮細胞の頂端膜を介した管腔内ナトリウム (および浸透圧で続く水) の電気拡散を媒介します。腎臓、結腸、肺、汗腺におけるナトリウムの再吸収を制御します。味覚にも関与する。PTM: セリンおよびスレオニン残基がリン酸化されている。類似性: アミロライド感受性ナトリウムチャンネルファミリーに属する。細胞内局在: 上皮細胞の頂端膜。サブユニット: 2つの  $\alpha$  サブユニット、1つの  $\beta$  サブユニット、1つの  $\gamma$  サブユニットからなるヘテロ四量体。  $\alpha$  サブユニットは  $\delta$  サブユニットに置換可能である。NEDD4、NEDD4L、WWP1、WWP2 の WW ドメインと相互作用する。

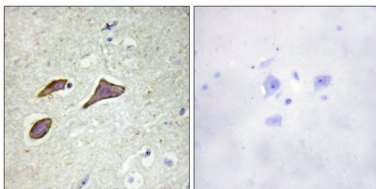
## 研究分野

味覚伝達、アルドステロンによるナトリウム再吸収の制御。

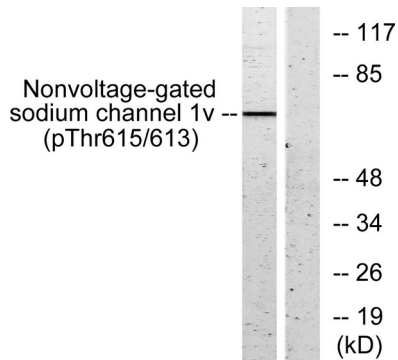
## 画像データ



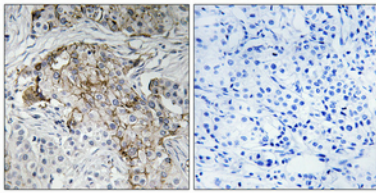
非電位依存性ナトリウムチャンネル 1 (リン酸化 Thr615) 抗体を用いた COS7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



非電位依存性ナトリウムチャンネル 1 (リン酸化 Thr615) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



非電位依存性ナトリウムチャンネル 1 (リン酸化 Thr615) 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。